

海外事務所 だより

海の安全

—サーフ・ライフ・セービングの現状について—

シドニー事務所所長補佐 山崎 恵(米子市派遣)

シドニー事務所

はじめに

オーストラリアは、三万六〇〇〇kmの海岸線を持ち、人口の八〇%が海岸から一〇〇km以内に住んでいます。海岸沿いには大小合わせて一万一〇一一のビーチ(注1)があり、海はオーストラリアの人々にとって親しみ深いものでもあり、また人々の命を危険にさらす怖い存在でもあります。一九〇二年に日中の海水浴が許可されるようになってから、水難事故の危険性も高くなり、水辺の監視と人命救助のために、一九〇六年世界で初めてのライフ・セービング・クラブがボンダイ(Bondi)ビーチに誕生しました。当初、サーフ・ライフ・セービング(以下、ライフセービング)の活動は主にボランティアで行われていましたが、翌年、ニュー・サウス・ウェールズ(NSW)州政府が水着の形の規制や人命救助活動の

助成に乗り出し、施設の充実や救命技術の改善、海水浴指定区域の設置など積極的に実施するようになりました。海の監視についても、ボランティアだけでなく、応急処置や救助活動ができるビーチ監視役を市が配置するようになりました。これがライフガードの始まりです。最近では、日本でもライフセービングが活発になっていますが、オーストラリアではライフセービングを自治体主導で実施している点で日本と大きく違います。今回は、オーストラリア国内で最も観光客の多いボンダイビーチにスポットを当て、ここを管轄しているウェイヴァリー(Waverley)市を訪問し、市が行っているライフセービングに関する政策について調査をしました。

(注1)SLSAサーフ・ライフ・セービング・オーストラリアの調査による。

ライフセービングと海難救助

ライフセービングは水難事故防止のための監視が主な仕事であり、人命救助、ライフセーバーの技術向上のための競技活動や一般者への教育活動も含んでいます。オーストラリアには、ライフガード(地方自治体が雇用している専門員)とライフセーバー(ボランティア)がいます。現在オーストラリアには、「SLSA」という全国的な組織があり、会員は一万一三六四人にも上り、世界的にも大規模なボランティア組織となっています。実際にライフセーバーとして海難救助を行っている会員は三万四〇〇〇人で、ライフガードの資格を持つ者は五〇〇人を超え、その約七〇%が自治体や国立公園で専門職として活躍しています。

海辺を歩くライフガードやライフセーバーの姿は、子どもたちや海水浴客のあこがれ



↑監視するライフガード

呼ばれています)を教育しています。

ライフガードの資格は、自動車普通運転免許証、救急処置および高度救急蘇生技術資格、水上バイク・ジェットスキーの運転免許が必要で、ライフガードに就任後、さらに高度な訓練(脊髄損傷管理、自動式心臓除細動器の使用、職業的救急処置等)を受けて技術を向上させています。ボランティアであるライフセーバーは基本的なライフセービング技術を身に付け、ブロンズメダリアン(ライフセービングの功労賞)の獲得や年次昇給試験合格を目指して、日々訓練しています。

ボンダイビーチ

シドニー市街地の南東部に位置するボンダイビーチは、海水浴や日光浴、サーフィンなどで年間二五〇万人の観光客(オーストラリアの人口二二〇六三万人)が訪れる人気の高いビーチです。南太平洋に面しているため、波が高いのが特徴で、アボリジニー

の的です。若手のライフセーバーを育てるために、七歳からジュニアプログラムを組み、四万人以上のジュニア・ライフセーバー(ニッパーと

(オーストラリア先住民)の言葉で、「岩に砕ける白い波」という意味でボンダイと名付けられました。

一九三八年二月六日に発生した高波



↑8月(冬)のボンダイビーチ

に、約三万人の海水浴客のうち三〇〇人が飲み込まれるという「暗黒の日曜日(Big Sunday)」事件が起きました。八〇人のライフセーバーが救助に当たり、死者はわずか五人という異例の業績を残し、ライフセービングの必要性を世間に大きく示しました。

また一九九七年一月七日には、二四歳男性が一五m先の浅瀬(腰の高さ)から波をくぐって潜ったところ、砂州に頭をぶつけて脊髄を損傷し、首より下が不随になる事件が起こりました。彼はウェイヴァリー市に對して、海水浴可能区域を示す旗(以下、フラッグ)の配置および砂州警告板未設置において「職務の怠慢」であったと訴訟を起し、最高裁判所まで上告し、三七五万ドルの損害賠償金を受け取りました(二〇〇五年二月九日)。この事件が契機となり、各州において民事責任法の改正が行われ、危険警告のあるレクリエーション活動については、市の危機管理が不十分でない限り、自

己責任において安全確保する必要があるという条文が加えられました。これにより市の安全対策義務と責任保障の範囲が明確に提示されるようになりました。

ウェイヴァリー市

ウェイヴァリー市は人口が六万六七五人(NSW州人口の約1%規模)で、三つのビーチに、専門のライフガードを雇用しています。訪問客が多い夏(一〇月末〜三月)は朝六時から夕方七時、夏前後(九月末〜一〇月、四月)は朝六時から夕方六時、シーズンオフ(五月〜九月、ボンダイビーチのみ)は朝八時から夕方五時まで、年中無休で働いています。常勤の職員は四人で、年間非常勤が二人、訪問客が多い夏は三七人の臨時ライフガードを雇用しています。

ウェイヴァリー市でライフガードを初めて雇用したのは一九一三年で、当時はビーチインスペクターと呼んでおり、一九九四年からライフガードと呼ぶようになりました。ウェイヴァリー市ではNSW州で定める地方自治法(注2)などに基づいて、公共エリアの提供および保全、水難対策や救急対応、市民の身体的幸福の追求を確保するために、ライフガードの設置を年次計画(Management Plan 2006/2010)(注3)で取り決めています。

一方、ボランティアであるライフセーバーは、夏の期間中の週末および休日にライフ

ガードの補助をしています。ボンダイビーチには、ボンダイ・ベイザーズ・ライフセービング・クラブ(会員一〇〇〇人、ライフセーバー二六〇人)とノースボンダイ・サーフ・ライフセービング・クラブ(会員二〇〇〇人、ライフセーバー三五〇人)があり、ライフガードの青いユニフォームに対し、ライフセーバーは赤と黄色のユニフォームを着ています。赤と黄色はフラッグの色でもあり、海の安全を象徴する色になっています。

年次計画の中でも、ライフセービング・クラブとの協力により、ビーチの安全を維持すると明記しており、ビーチ管理のために年間一二〇万ドル(清掃・修理を除く)の予算を計上し、クラブに対しては、五万七五〇〇ドルの補助金を与えています。ライフガードは主に海岸使用における規則を作成し、フラッグの配置や標識の整備、海水浴客を統制するような業務に当たり、大小関係なく応急処置に対応しています。一方ライフセーバーは、フラッグや標識について説



↑危険警告標識の案内板

明をするなど、訪問客に海水浴についての安全を促しています。いわゆる教育係です。大きな負傷事故など発生する場合には、ライフガードを補助する役目もあります。相互の協力関係を維持するため、年に最低二回は公式会議を開催し、海岸管理についての議論をし、常に連携をとりながら海岸の安全に取り組んでいます。

(注2) LOCAL GOVERNMENT ACT1993-SECT8, 22, 36, 361
STATE EMERGENCY AND RESCUE MANAGEMENT ACT1989-SECT 29
(注3) P79 Direction no1, P80 Strategy pt 2, P82-83 Activities



一年中訪問客のあるオーストラリアの海には、私たち一人ひとりの安全を見守ってくれるライフガードたちが必ずいてくれます。南半球にあるオーストラリアは、季節が

日本と逆になるため、一二月は夏真っ盛りです。ボンダイビーチは国内外問わず多くの訪問客でにぎわっています。ビーチの真



↑ライフガードの監視タワー

ん中にはライフガードの監視タワーがあり、日々訪問客の安全を見守っています。

ライフガード(市)とライフセーバー(ボランティア)の協力により、たくさんの方が救済され、危険地帯の標識や海の安全に関する情報提供によって、楽しい遊び場である海の危険性についての教育もなされています。安全だからこそまた遊びに行こうと思う、この安心感が訪問客の定着、増加につながり、市の観光振興の一つとなっていることも確かです。ウエイヴァリー市は観光資源であるボンダイビーチの安全を一つの政策として掲げていますが、ビーチの安全対策だけでなく、ボンダイビーチの訪問客が市の経済を支えている一つの大きな要素とするならば、そこには、ライフガードとライフセーバーたちの日々の努力が大きく貢献していると言えるでしょう。

- 〈参考ホームページ〉
- ・ウエイヴァリー市
<http://www.waverley.nsw.gov.au/>
 - ・ボンダイ・サーフ・ベイザーズ・ライフセービング・クラブ
http://www.bondisurfclub.com/html/s01_home/home.asp?nid=home&dsb=43
 - ・ノースボンダイ・サーフ・ライフセービング・クラブ
http://www.northbondisurfclub.com.au/html/s01_home/home.asp?dsb=11
 - ・サーフ・ライフ・セービング・アンシエーション
<http://www.slisa.com.au/default.aspx?s=home>
 - ・オーストラリアン・プロフェッショナル・オシャン・ライフガード・アンシエーション
<http://www.apola.asn.au/about.htm>
 - ・オーストラリア大使館
<http://www.australia.or.jp/seifu/>

海外生活 だより



シドニー事務所

オーストラリアワインの 楽しみ方

シドニー事務所 所長補佐 堀切 孝良(三重県派遣)

日本ではフランス、イタリア、ドイツ、スペイン産のワインは、わりと見かけるものの、オーストラリア産のワインをあまり見かけたことがありませんでしたが、オーストラリアでは、ヨーロッパの高級ワインに匹敵するような素晴らしいテイストのワインを手頃な値段で味わうことができます。国内六〇地区以上にわたって二〇〇〇以上のワイナリーがあり、シドニー市内のボトルショップ(酒屋)に行けば、さまざまな地域のワインが手頃な値段で売られており、オージ(オーストラリア人の通称)が日常的にワインを楽しんでいることが分かります。

今回は、オーストラリアワインについて紹介したいと思います。

オーストラリアワインの歴史

一七八八年にシドニーに上陸したイギリスの第一移民船団乗組員によって持ち込まれました。一八五〇年代には、ハンターバレー(ニュー・サウス・ウェールズ州)、パロツサバレー(南オーストラリア州)、ヤラバレー(ビクトリア州)といったオーストラリアを代表するワイン産地が確立されました。一八九〇年ごろからブドウの木が多くがフランス、ドイツ、スペインから持ち込まれ、同時にワイン醸造の技術も持ち込まれました。現在では、世界第四位のワイン輸出国で、ヨーロッパ以外の国では最大のワイン輸出国です。

良質で安価なワイン

値段が手頃なこともあり気軽に楽しむことができます。ボトルショップに足を運ぶ

と、一本一〇ドル(約九〇〇円)程度から豊富な種類のワインが店一杯に陳列されています。ボトルショップによってはクリンスキン・ワインと呼ばれる、ラベルが貼付されていない、ワイナリー(生産者)不明のワインが売られています。これはかなり安く、一本六ドル(約五〇〇円)程度で購入できます。中身は通常のワインと変わらないのですが、余剰となったワインを売るために、あえてワイナリー名を隠して(値崩れを防ぐために)販売しています。なかなか面白い仕組みです。

またオーストラリアではコルク栓ではなくスクリューキャップを使ったワインが多く売られています。簡単に開栓することができます。またコルクによるワインの劣化のリスクを避けることができるので、かなり普及しています。

シラーズが人気

オーストラリアの特徴がよく表れている赤ワインのブドウの品種といえば、シラーズ(フランスではシラーと呼ばれています)です。オーストラリアの冷涼地を除くほぼすべてのワイン産地で作られており、その味わいは力強くリッチで、チコレートの香りがするものから、スパイシーなものまでさまざまです。ほかには世界各地で栽培されているカベルネ・ソーヴィニオンはもちろん、ピノノワールという品種がタスマニアやヤラバレーといった冷涼地で栽培されているほか、テン

プラーニョといったスペインをルーツとした品種等、幅広い品種が移民により持ち込まれ、栽培されています。

白ワインの品種としては、シャルドネのほか、セミヨン、ソービニオン・ブラン等さまざまな品種が栽培されています。比較的フルーティなものが多く、飲みやすいのが特徴です。中には、蜂蜜のアロマ(芳香)を感じられるものもあります。

オーストラリアワインの特徴としては、国土が広いため、産地によって気候、地形、地質や土壌が異なるので、同じ品種のブドウから作られたワインでも地域によって味わいが大きく異なることです。こうした違いを楽しむことも、オーストラリアワインの楽しみ方の一つです。

ワイナリー巡り

休日には、名も知れぬ小ぢんまりとしたワイナリーを訪れて、試飲しながらお気に入りワインを見つけています。ワイン好きにはこの上ない楽しみです。ワイナリーを訪れると、まずワインリストを渡されますので、気に入った品種のワインを試飲するのもよし、ワイナリーの主人に勧められるがままに飲んでもかまいません。気に入ったものがあればその場で購入も



できます。次に私が訪れたことのあるワイン産地をいくつか紹介します。

ハンターバレー
ニュー・サウス・ウェールズ州にあるワイン産地。丘陵地帯にあり、ワイン畑が一面に広がっており、のどかな景色を楽しむことができます。



↑ハンターバレーにあるワイナリー。
ワイナリーによっては、屋外でランチを楽しむこともできます



↑ブドウ畑で見つけたカンガルー

タマバレー

タスマニアにあるワイン産地。タマー川沿いにワイナリーが点在しています。冷涼な気候を利用してリースリングが多く作られています。リースリングといえ、ドイツ産が有名ですが、ドイツのリースリングに比べると、甘味は控えめで、すっきりとした気品溢れる酸味が特徴です。



↑タマバレー 奥に見えるのがタマー川

スワンバレー
西オーストラリア州にあるワイン産地。州都であるパースから車で三〇分程度で行くこ

とができます。白ワインの種類が豊富で、CHENIN BLANCとった珍しい品種のワインを楽しむことができます。



↑スワンバレー 収穫時期が終わっており、落葉している

ワイン物産展

週末になると、各地でワインの物産展やフェスティバルが開かれており、中でも大きなイベントが二年に一回開催されるワイン・オーストラリア・インターナショナル(ワインの国際見本市)です。七月一四〜一七日にシドニー・エキシビション・コンベンションセンターで開催されました。

二〇〇〇以上の銘柄が、地域ごとに分かれて出展しており、にぎわっていました。ワイン産業は、観光面でも経済効果があり、州政府もこうした販売促進のイベントに力を入れて取り組んでいます。

オーストラリアワインは、日本ではあまり知られていませんが、一度飲んでみるとそのレベルの高さに驚かされます。もしどこかでオーストラリア産のワインを見かけられたら、試してみてください。また、オーストラリアに来られた際は、ぜひワイナリー巡りをされることをお勧めします。